

令和5年度第3回平塚市市民活動推進委員会 議事録

日 時 令和5年11月10日（金）午後2時から午後4時15分まで
場 所 ひらつか市民活動センター 会議室B
出席者 松田委員、和久井委員、西畑委員、市川委員、辻委員、能勢委員、中野委員、
事務局
傍聴者 なし

1 市民活動センター上半期利用状況、事業実施報告

市民活動センター上半期利用状況、事業実施報告について事務局から説明した。

〔委員からの意見・質問等〕

〈委 員〉：センター中間報告書で「コロナ5類以降特定の分野（生活困窮者支援、不登校支援、子ども支援等）以外は活動の低迷、元気がない」とあるが、何が原因と考えるか。

〈事 務 局〉：保険福祉、社会教育、環境保全等、様々な活動分野があるが、保険福祉・環境保全分野は高齢化が特に顕著になっている。団体メンバーの平均年齢が75歳、若くても65歳という団体も多い。活動も細く長くは続いているが勢いを持って新しいことに踏み出す力は減ったと感じる。団体を活性化したい方は相談に来られることもあるが、そうでない方は現状に満足というところはある。ただ、高齢化した団体に「もっと頑張りましょう」と言うのは結構酷と感じる。これから先も新しい団体は生まれると思うが、細く長く続いている団体には、何かお手伝いしたいという話をしている。

〈委 員〉：いい活動を長く続けている団体は絶やさないでほしいが、高齢化問題は非常に難しい。

〈事 務 局〉：人に対する問題は常に課題となっている。例えば環境保全や農村漁村の分野で活動が止まると今まで推進してきた保全が元に戻ってしまう。そちらについては各所と連携して長く続けられるようにしましょうと話している。

〈委 員〉：団体の終活支援は何か対応しているか。

〈事 務 局〉：法人格については返上の相談に乗っている。ついこの間もある法人が解散となった。肩の荷を降ろして、より自由に楽しく任意団体として活動しましょうとなった。一方、そう踏み切れるところはまだいい方で、団体の中で人数がなくなる、例えば代表が亡くなってしまいう等、そういう状況が増加している。そうなる話し合っって団体自体を解散するしかない。解散となると残余財産や所有物の問題もある。そういった対応に関するセミナーの開催を次年度以降に検討している。他市はどうか。

〈委 員〉：現状考えている。団体から直接相談が無いと、自然消滅している可能性もあ

る。そうすると団体自身が終わり方を考えているのか気にしている。

〈委員〉：そういった課題はあるが、支援する側からは話しにくい。

〈委員〉：すごく無理をして活動を続ける団体もある。解決する必要がある課題ももちろん多く存在するがそこまでして、という気持ちもある。団体の肩の荷を降ろす支援をしたいと考えている。

〈事務局〉：活動を 20、30 年と続けると団体そのものが自分たちの居場所になっていることもある。その居場所が無くなることで心身を崩す方もいる。支援する立場としては、いつまでも元気に長く活動してもらいたいという気持ちがある。団体には細く長く今のままで良いのではないかと話している。

〈委員〉：会議室状況を見ると以前のコロナ禍よりは利用が増加している。センターでは多くの利用者が来たとき、他施設を紹介する等、対応を考えているか。

〈事務局〉：団体に見合う収入を得て有料スペースを借りる等、紹介している。

〈委員〉：商店街の有料スペースも利用率が高くなっている。詳細は未定だが商店街にある他の会議室を一部開放するか等も検討している。

〈事務局〉：そういうスペースがあれば良い。中心商店街も活性化が大切と考える。また市民活動をより活発にするとまちも元気になる。駅からセンターまでの動線の中で団体が有効に活動する方法はあるか市と検討している。他市のセンターでは企業と契約をして空きスペースを団体に貸出しているところがある。センターのスペースが手狭ですぐ埋まってしまうので多少有料でもニーズがある。民間事業者も団体に利用してもらうことで社会貢献になる。平塚でも団体の利用方法は検討の余地がある。

2 令和6年度平塚市市民活動推進補助金のスケジュールについて

〔委員からの意見・質問等〕

〈委員長〉：募集期間を長くすることで組織基盤整備コースの応募は増えそうか。

〈事務局〉：活用するとより成長できるような団体に直接声掛けをしている。一方補助をすることで団体運営がより活発になることが目的だが、団体からは応募しにくいという声をいただくこともある。

〈委員長〉：その理由は何か。

〈事務局〉：対象が直接的な事業ではなく組織運営のために補助するので、団体もイメージしにくいかもしれない。

〈委員〉：団体にとっては運営あつての活動と思う。運営基盤を強化できれば活動がよりレベルアップできるという提案をしたら良いのではないかと。

〈事務局〉：そういった団体にこれからも声掛けする。

〈委員〉：現状把握のためにまずは分析をすると良い。過去の補助金活用団体にアンケートを取るのも良い。その意見を元に要綱をアレンジしてみてもどうか。他市

では折に触れてセンターで紹介している。補助金活用団体のロコミでも結構広がることもある。また発信も大事になる。説明会はズームと対面どちらでも行い、更に個別対応をする等手厚くしている。申請書の相談を随時受け、褒めたりする等、最後まで申請しやすい雰囲気も作っている。申請書類も毎年少しずつ改良している。センターとしても市から事前に相談を受けている。

〈事務局〉：団体自身に課題感がないと申請をしない。団体を第三者目線で見つめ直すことが出来ると良い。支援側から団体の課題をすべて伝えることは難しい。

〈委員〉：団体として見直すのはなかなか難しい。常に余裕がない。

〈委員〉：少人数の団体は必要性を感じても余裕がない。10、20人程メンバーがいる団体は基盤整備の必要がある。補助金を活用してどのように活性化してもらうかが大事。より多くの団体に活用してもらえるように現実的なところも一緒に検討する必要がある。

〈事務局〉：アイデアがあれば随時受け付けるので、意見をもらいたい。

〈委員長〉：団体からの聞き取り結果等があると意見しやすいので次回以降でも情報提供してほしい。

3 提案型協働事業の進捗状況

令和5年度実施事業の中間ヒアリング状況と令和6年度実施事業について事務局から説明した。

〔委員からの意見・質問等〕

〈委員長〉：あいあいリトミックは来年度に再申請はありそうか。

〈事務局〉：現時点で2か所の小学校と連携していて、それは大きな一歩であり最大の効果でもある。何年後かに改めて申請する可能性もあるが、今すぐに申請とはならないと思う。

〈事務局〉：いかに申請のハードルを下げたり、提案しやすくするかが課題と考えている。スケジュールがタイトなので、補助金のように募集期間の検討もしている。行政も提案しやすいことが大事になる。

〈委員〉：以前出席した市の協働研修は良かった。その後提案が増えると思ったがどうか。

〈事務局〉：現状は増えていない。原因にコロナも関係している。ガラリと変わってしまった。団体の勢いもなくなり、行政の荷物も増えてしまった。

〈委員〉：協働事業は担当課の負担が増えてしまうと伺った。そこが一番ネックなのではないか。団体からアプローチした場合、行政が忙しくて受けられないと本制度は生きてこない。マッチング方法を変えてみてはどうか。行政から団体に協力してほしい情報を出してもらえると良い。そこから協働が生まれるかもしれない。

〈事務局〉：行政も団体も国が力を現状入れている分野は忙しい。その分野の団体は行政と協働したいとなるが、行政はとて忙殺している。そうすると協働事業は難しいので業務の棚卸をしてほしい。行政の手が届かないことも団体の強みを活かせば届くこともある。そうすれば行政側も負担が軽くなる。団体はやりがいを感じる。課題のマッチングができるが、忙しいと何も出来ない。行政の課題がないところに提案してもお見合いは成立しない。

〈委員〉：自分の所属団体も行政が目指すところを絶えず意識し、行政の考える中で動けるようにも考えている。また、協働する中で行政と対等にやり取りできる。例えば団体は委託でなくボランティアなので自分たちの意に沿わないことは出来ない。しかし、出来ないことは出来ないと話せる間柄だからこそ良い関係で事業が進む。

〈事務局〉：お互いどれだけ対話出来るか。今度の協働研修では対話の練習が出来る。

〈委員〉：研修の参加職員も多くの部署から来るのか。

〈事務局〉：様々な部署から集まり比較的若手の職員を呼んでいる。異動でどんな部署に所属しても協働を意識してほしいという意味を込めて種をまくつもりで行う。

〈委員〉：こういう機会を作るのは大事。

4 NPO 法人への寄附による税控除の条例改正について

NPO 法人への寄附による税控除の条例改正について事務局から説明した。

〔委員からの意見・質問等〕

特になし

5 第5回平塚市みんなのまちづくり事例表彰の選考（非公開）

第5回平塚市みんなのまちづくり事例の選考を行い、11事例の年間大賞を決定した。

閉会